

## 「2024年度インドネシア大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学農学部1年 島山 実花

## ① 学習成果

今回の短期留学に参加する前は、海外での生活に明確なイメージがなく自分がその暮らしに適應できるのか、などたくさんの不安があったが、実際行ってみると案外困ることもなくとても楽しい日々を送ることができた。日常生活では、現地の学生と仲良くなり、共同発表の話だけでなくお互いの生活の話もして、違いに驚くことも、共感することもあって、自分にとって良い経験だった。特に宗教については大きな違いがあり、なんとなくは知っていた礼拝や断食のことも、現地の学生と交流を通して実感できてとても勉強になった。旅行では現地の同年代の学生と仲良くなることはないの、留学という形で海外に行くことは人生の財産になると思ったし、これからの学生生活でまた挑戦したい。

語学面では、実際に現地で聞いて話すことがインドネシア語の学習にとっても効果的であった。一年間を通して学んだ第二外国語よりも身についたので、やはり語学の勉強は実際に現地に行って使うのが一番だと感じた。日本にはインドネシア語の勉強は環境が不十分であるように思うから現地で学べたのはとても良かったが、あと一週間あれば理解が飛躍的に伸びたような気がしたので少し残念だった。次回留学に行く機会があれば、2週間以上のものに挑戦したいと思う。

## ② 海外での経験

インドネシアに到着して一番に思ったことは、日本製品が多いことである。車、バイクをはじめ、家電製品なども日本の会社のものが多かった。シャンプーなどの日用品も日本で買っているものが販売されていて驚いた。こんなにも現地調達が可能だとは思っていなかった。ほかに感じたことは、労働力が多いことである。来客の少ない店でも従業員が多くいたり、あらゆるところに清掃スタッフがいたりする。しかもみんな若い。インドネシアにはアルバイトという概念がないため、日本の学生アルバイトがするような仕事をしているのは正社員である。そう思うと、より一層労働力の多さを感じられる。また、配車サービスが充実しているし日本よりもキャッシュレスが進んでいた。自分が思っていたよりインドネシアは発展していた。ただ、雨季で曇った日が多いのが少ししんどかったが、気候が違う土地にある程度長い期間いることもそうないのでいい経験だった。

## ③ プログラムの内容

大学での授業は、先生がインドネシア語でインドネシア語を教えてくれるので、理解が及ばないことも多かったが、何度も授業で出てきたり、違う先生が違う言い方で教えてくれたりすることを通して、きちんと理解することができた。語学学習以外にも伝統楽器に触れたり、現地の学生の授業に参加したりすることは、とてもいい経験だった。1週目は、平日の午後があいていることが多く、その時間でジャカルタなど遠いところまで行けたのが良かった。2週目は放課後の時間が短く、現地の学生と近所のショッピングモールに通う日々になった。現地の大学生みたいな生活ができて良かった反面、習ったインドネシア語を駆使したり試行錯誤したりして、行ったことのないところに行けたらもっとよかった。

## ④ 進路への影響

参加する前は、インドネシアと自分が専門としたいことに関係を見いだしていなかった。多文化交流ができるという点で選んだ行き先だったが、行ってみると、わかってはいたが植生も違うし普段見られる生物が明らかに違う。熱帯の多様な生物に圧巻された。図鑑だけで見える世界を自分の目で見るという貴重な体験ができ、自分の興味の範囲が非常に広がった。専門的な学習のために海外に行くことは、語学力の点で今の自分には難しいと思うが、将来的な選択肢のうちの一つとして考えようと思う。